

【意見聴取のまとめ】

現市民会館の利用者団体、市内高校生（吹奏楽部、演劇部、軽音楽部、まちづくり研究部）意見を聴取しました。（平成28年10月4日～10月26日）

〈メインホール舞台〉

- ・舞台の大きさは現市民会館と同規模（間口10間×奥行8間×高さ5間）を希望。
- ・多機能ホールとして残響時間（1.2秒～2秒程度）を調整できるようにほしい。

〈サブホール〉

- ・本格的な音楽ホールとしてほしい。椅子は固定席がよい。
- ・平場にできるよう可動椅子が良い。
- ・上手と下手の舞台袖が必要。
- ・日本の古典芸能として利用できるよう、舞台は幅14.4メートル程度にしてほしい。

〈楽屋〉

- ・楽屋は複数階ではなく1階に広く設置してほしい。
- ・廊下幅を広く取ってほしい。
- ・最大60名の演奏者が集うために楽器の置き場所を確保してほしい。

〈大道具〉

- ・大道具、小道具を収納できるスペースがほしい。
- ・小ホールにある能舞台を持っていきたい。

〈リハーサル室〉

- ・メインホール舞台と同等の大きさがほしい。

〈練習室〉

- ・練習風景が外部に向かって見えるようにすることはよい。
- ・料金を低めに設定してほしい。学割を考慮してほしい。

〈搬入エレベータ〉

- ・グランドピアノが載せられる大きさとしてほしい。

〈展示室〉

- ・ 広さは現市民会館展示室と市民ホールを使用した広さがほしい。
- ・ コンベンションを展示室でできるようもっと広くしてほしい。
- ・ 展示台、道具等を収納する倉庫がほしい。

〈工房〉

- ・ 美術作品の制作を行う場所がほしい。

〈和室〉

- ・ 既存と同じ46畳程度、3室程度に区切れるような和室がほしい。
- ・ スタッフの控室、来客、講師の控室として使用するため、和室と会議室を隣接配置としてほしい。
- ・ 和歌山城が見えるように南側にしてほしい。

〈会議室〉

- ・ 150人程度が教室形式に座れるスペースがほしい。
- ・ 各会議室は防音使用としてほしい。
- ・ スライディングウォールで仕切れるようにしてほしい。

〈レストラン・ショップ〉

- ・ ショップ・レストランは必要ない。ショップはわかやま歴史館にある。
- ・ 和歌山県のグッズを販売するショップが必要。
- ・ 和歌山のものではなく、和歌山にないものを入れてほしい。
- ・ カフェとしてスターバックスやタリーズを希望。

〈外構・広場〉

- ・ 医大薬学部から市民会館の広場への連携、通り抜け等の検討も必要。
- ・ まちを歩くしかけ、回遊性の誘導のしかけの検討が必要。お城側の歩道とデザインの統一性なども検討が必要。
- ・ 外部と直接的に繋がる空間があったほうがよい。
(外部階段から直接2階ホワイエへアクセスするような空間)
- ・ ご当地キャラのシルエットを歩道部分に表現し、和歌山らしさを感じられる外構計画に。
- ・ 手まり広場の上部に建物が重なっている(突き出ている)ので、開放感がないように感じる。
- ・ 1階の階高を上げて高さに余裕を持たせ、圧迫感のないものとしてもらいたい。

〈屋上〉

- ・屋上ステージで、子ども向けの劇をすれば人が集まる。
- ・屋上は眺望がよいので、使い方を検討してほしい。
- ・屋上に屋根をかけてフライタワーのデザインを整えてほしい。

〈バリアフリー〉

- ・障がい者の方がスムーズに利用できる計画としてほしい。
- ・ホールの車いす用席は、介助者が隣に座れる工夫をしてほしい。
- ・駐車場から入り口までの動線を屋根つきにしてほしい。
- ・自然採光はよいが弱視者にとっては明るすぎるのはよくない。床は、光沢のないものに。
- ・館内に大型モニターを希望。緊急時を考慮しフラッシュ付きの字幕設備にしてほしい。
- ・階段や段差は、弱視者にも見やすい配色に、足さきでも判りやすい構造にしてほしい。
- ・視覚障がい者も避難しやすい非常口等の設備にしてほしい。
- ・トイレの中は明るく、荷物がおけるように、すべて洋式ではなく和式もほしい。

〈共用部〉

- ・紀州材を使用した内装ですが、白を基調にした美術館のようなイメージも検討してもらいたい。
- ・ハワイエやロビーの共用部に梅やみかんの木を置き、和歌山らしさを表現してほしい。
- ・他県から来た人や外国人旅行者へのPR等の為、和歌山の自然を感覚的に表現した内装や照明・ディスプレイなどを設置してほしい。
- ・吹き抜けの壁面にも展示できるようにしたい。
- ・和歌山城に向けて、本を読んだり勉強したりする場所がほしい。

〈運営〉

- ・新市民会館での指定管理・運営委員会の検討が必要。
- ・施設整備後の企画力が重要になる為、運営委員会は設計段階からの参入が必須。
- ・指定管理、館長等に関しても早めの人選が重要。
- ・子どもたちが無料で観れる、聴ける、演奏できる、集える場所として、運営委員会を含め検討が必要。
- ・施設整備後の企画力が重要になるため、運営委員会は設計段階からの参入が必須。
- ・テナント・ショップの運営に関して、市民に使ってもらえる為には、ということを考えてほしい。
- ・若い人たちが興味を持つ音楽祭や劇を盛んにしてほしい。
- ・体験教室や講義は、学生も気軽に参加できるよう無料で開催してほしい。

〈その他〉

- ・外部から現在行われているイベントがわかるように、サイン計画を検討してほしい。
- ・館内のディスプレイやデジタルアートが表現できるような設備計画を検討してほしい。
- ・和歌山城を見ながらゆったりできる温泉がほしい。足湯でも良い。
- ・外国人観光客や子どもたちが、日本の昔ながらのおもちゃや伝統を体験できる場所がほしい。
- ・和歌山城を見ながら絵を描いて展示するような写生大会ができればよい。
- ・和歌山城の周りをランニングする人たちが増えており、シャワー室の利用を検討してほしい。

【ワークショップのまとめ】

〈第1回ワークショップ〉

みんなが利用しやすい魅力ある施設にするために ～施設の機能・動線を考えよう～

●施設の機能

- ・楽屋を1階に集中させてほしい。
- ・メインホールも可動席にしてスポーツ等多目的に利用できるようにしてほしい。
- ・常設ショップは魅力的になりにくいので、企画ショップの方が良い。
- ・小さいレストランよりフリーエリアのカフェの方が賑わうと思う。
- ・トレーニングセンターのような健康増進機能を持った施設づくりをしてほしい。
- ・屋上の魅力を高めることにより、天守閣からの賑わいを感じ取れる。
農園を造ってほしい。
- ・展示室の壁面は最大活用できるものにしてほしい。
- ・授乳室、一時保育室、ホールに親子室など、小さい子ども連れの方も利用しやすい施設にしてほしい。

●動線

- ・車寄せを広くとらないと渋滞につながる。敷地内でバス、送迎者が回転できるようにしてほしい。
- ・歩道部分を緑地にして車道との緩衝帯する。施設への導きにもなる。
- ・メインホールとサブホールを同時開催した時、ロビーの混雑が懸念される。
- ・イベント時、道を行く人がふと足をとめて入ってくるようなしかけがあると良い。

〈第2回ワークショップ〉

周辺との調和がとれたデザインについて ～訪れるひとにやすらぎをもたらすために～

- ・ガラスは目立たなくし、木の雰囲気強く感じる建物としてほしい。
- ・熊野本宮館のようにわかりやすいデザインで、高齢者の方でも理解できるようにしてほしい。
- ・斜線のデザインも良い。
- ・市民会館と和歌山城を、お堀を跨ぎ繋げる。

- ・紀州の木材を内外に使用してほしい。
- ・丸みを帯びた建物にしてほしい。
- ・全体的に開放感のある建物にしてほしい。
- ・緑地帯についても周囲と連動し、和歌山らしさを演出してほしい。
- ・くつろげるスペースを多く設けてほしい。
- ・現デザインが良い。
- ・ルーバーの素材を規格品のようにならないように検討してほしい。
- ・紀州青石を敷いてほしい。
- ・夏みかんを植栽すれば花は香るし、実は半年鑑賞できる。
- ・ハーフカラーガラスで遮熱を検討してほしい。
- ・外部から内部で何をしているか見え、感じられるようにしてほしい。
- ・西側の市道は敷地の一部になるように美しくしてほしい。

〈第3回ワークショップ〉

市民の芸術文化の育成について ～自ら創造し、交流・発信する場に～

- ・会議室を〇〇〇ロフトという名称にし、多目的に利用しやすいように。
- ・まちのにぎわいを取り戻す施設としてほしい。
- ・練習を目的とした場所ではなく、本番や発表を想定した施設であること。
- ・各芸術文化が高いクオリティをもって発信できる場であれば、全国から人が集まる。
- ・全てのジャンルでレベルの高いものを演出できるようにしてほしい。
- ・音楽、演劇、オペラ、美術、講演会、演説会、古典芸能、歌舞伎、能、狂言、バレエ、コンテンポラリーダンス、日本舞踊、落語、カラオケ大会、入学式、会社説明会、シンポジウム等が実現できる施設。
- ・舞台美術のレベルを上げてほしい。
- ・授乳室、一時保育室、親子室の設置をしてほしい。
- ・目的がなくてもふらっと立ち寄れるしかけがほしい。
- ・舞台には花道をつくり、舞台構成が出来る幅に広げてほしい。
- ・利用状況を分析し、目的別のエリアとしてほしい。
- ・若いひとが気軽に安く利用できるスペースとしてほしい。
- ・田辺市のBig・Uのような屋上公園がほしい
- ・夜間でも屋上広場へ行けるように検討してほしい。

〈第4回ワークショップ〉
市民会館の運営と市民参加について ～事業を実現できる組織とは？～

●全国的な傾向として

- ・市民会館に来る人、能動的に、芸術・文化活動をしている人・・・全市民の2～3割
- ・芸術・文化にまったく関心がない人・・・全市民の7～8割

税金を投入する以上は、これまで芸術文化活動にふれる機会が少なかった人たちを

⇒ どう芸術・文化の魅力に気づかせるか？ この施設に期待しているのか？

⇒ 今まで利用している人は、スキルアップの場となるように

- ・ハード面

例えば、気軽に来ていただけるように、外部から入りやすいデザインをはじめ
エントランスやカフェなどの共用空間の工夫やしかけが必要

- ・ソフト面（運営）

アウトリーチ活動、地域づくり、多様な参加形態による市民との協働

○施設を整備すること

新しい市民会館は、芸術・文化の振興はもとより、地域におけるまちづくりにおいても
大きな期待と役割を担っている。⇒ 魅力ある事業の実施や集客力のある公演を誘致する
ことで、まちのにぎわいを創出することもできる。

○グループワーク

- ・市民会館のキャッチコピー
- ・市民会館でどのような活動がしたいのか
- ・市民会館でどのような事業をやってほしいのか